

2012-2013年度 世界平和フォーラム 参加報告

2012-2013年度
地区ローターアクト 幹事

高橋洋子

開催日時：2013年5月17日(金)~18日(土)

開催場所：広島国際会議場

ANAクラウンプラザホテル広島

主催：国際ロータリー

参加者：地区RA委員長 池田佳弘様
地区RA副委員長 永田大介様
地区RA委員 久保義誓様 丸尾照二様
RA地区役員7名、アクター22名、
ライラリアン(RA・OG)1名
(1日参加者、両日参加者含む)

2012-13年度の田中RI会長のテーマは 「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリーはベルリン、ホノルル、広島の3都市で「2012-13ロータリー世界平和フォーラム」を開催し、平和について語り、未来のビジョンを考える、これからの未来への展望を考えることを目的として、また、ロータリアンや地域のリーダーとともに平和への決意を固めることを目的として行われました。

広島では、特に新世代に焦点を当て、ロータリアンとともに、平和への日常的な意識と行動に種火を点火し、次の時代に行動を引き継いでいく出発点とすることを目指し、新世代プログラムの参加者を交えて行われました。

ベルリン：国境のない平和 (Peace Without Borders)

ホノルル：平和にいたる緑の道

(The Green Path to Peace)

広島：平和はあなたからはじまる

(Peace Begins with You)

私たち一人ひとりが日々の生活や地域社会での活動で平和を推進することができるか、未来志向のこの会議では、一人ひとりが今後(何日、また何年にもわたり)どう貢献していけるかを、参加者に問いかけ、進行されていきました。

このフォーラムの中で、何度か出ていた言葉。『心が平

和でありますように』という言葉がとても印象的でした。すべての人たちの考えの中に平和を位置付け、日々作らないといけない平和、さまざまなプロセスを経ていく平和、心底から信じて平和を構築していく事が大切だというメッセージが伝えられました。

広島で開催された平和フォーラムでは、52カ国、約2,000名の参加者が集まり、盛大に開催されました。

開会式で、国際ロータリーの田中作次会長が「人の役に立つために何ができるかを考え、世界を少しずつ平和にしていこう」と挨拶されました。

基調講演では「国連憲章の制定にはロータリー会員が携わった。力を合わせ、平和を実現したい」と話されていました。また、広島県知事、広島市長、中国新聞社社長が、世界平和のため広島が担うべき役割を話し合うパネルディスカッションも行われました。

2日目全体フォーラムでは「平和はあなたから始まる」ロータリアンだけでなく、外部のゲストからも多くの貴重な講演を聞くことができました。

閉会式では「ひろしま平和宣言」、国連とRIとの記念品授受そして国際RI会長 田中作次氏による講評で無事閉会となりました。

広島という地域から改めて平和ということを考え直し、このフォーラムを通じて、平和について考えるきっかけとなりました。各自何かを感じ取って帰った実り多き一日になったことと思います。

また、フォーラムを通じて、他地区、他国の新世代と交流することができました。

ここからは私が参加した部門について記載します。

1日目 プレフォーラムワークショップ

テーマ：宗教・文化・生活習慣は平和を阻むのか？

コーディネーター：片野淳彦氏(札幌大学非常勤講師)

私が参加させて頂いたセッションでは「小樽」にある公衆浴場で実際に起こった事件「小樽温泉入浴拒否問題」をもとに、浴場経営者・日本人利用者・ロシア人利用者の立場を踏まえ、「サークルプロセス」という手法を用いて、ワークショップを行いました。

サークルプロセスとは、北米の先住民の伝統的な手法

を模した話し合いの方法で、参加者は輪になって集まり、互いの声にじっくりと耳を傾け合い、話し合うためのもので、参加や発言はすべて任意で、強制されることがありません。

マイクを持つ人だけが話す権利を持っており、マイクを持っていない人は一切の発言の権利がなく、マイクを持つ人の話をしっかりと聞きます。セッションを通じて、異なる世代・異なる国籍の異なる考えを持つ方々と国籍や世代の壁を取り払い議論することで、世界を身近に感じる一方で、日本社会が国際化に向け、多くの問題を抱えている事を実感しました。

課題を解決するためには固定概念にとらわれるのではなく、変化を恐れず相手を理解し、理解してもらい、互いに歩み寄ることが重要だと強く認識しました。

やはりコミュニケーションが大切で、お互いに文化や生活習慣等を紹介して理解し合い、相手を尊重して接することが大切であるとの結論になりました。

2日目は、ポール・ハリス・ランチョンセミナーとして軽食を取りながら、交流する場が設けられていました。

2日目 ポール・ハリス・ランチョンミーティング 東日本大震災「絆」の部屋

東日本大震災後の東北のその後、ロータリーの支援について話を聞きました。

ミーティングでは瓦礫撤去がおわったところだという現在の東北の現状、ボランティアの数の著しい減少等の現状が報告され、このまま被災地が忘れ去られていくのではないかという不安と、これから震災の地域に何が必要かと言うことを議題として話し合われました。

海外の参加者の中には、今回の震災で親を失った子供達、特に兄弟が離ればなれになって生活していくことが忍びないと、その子供を養子として迎え入れたいといった言葉や、心のケアという観点から、新世代をこの夏被災地に連れて行き、地域の子供たちと交流し、被災地の子供たちの心のケアを行いたいと言った提案が出されました。

途中、田中作次RI会長が入ってこられショートスピーチと多額の寄付がなされました。

